人口と世帯数

男 2,585人

2,620人 女

5.205人

計 世帯数 959世帯

昭和42年11月30日現在

年

上げます。 迎えるに当り謹んで年頭の辞を申 光輝ある昭和四十三年の新春を

博

京で行はるる自治消防制度二十周 実績がむくいられ本年三月七日東 致し度い事は本村消防団は多年の

義は神明はもとより父祖の霊に誓 の栄職に就かせて頂きました御恩 なうし不肖の身を以つて再度村長 民生行政に関し特に御伝い

絶大なる御交誼御援助をかたじけ

年でありますと共に地方自治の新 た年でもあります。 制度発足以来二十一年即ち成人と 最も記念すべき明治百年祭のよき ら敬意を表するものであります。 挙げ得ました事を同慶に存じ心か 政万端に亘り大きな発展と実績を を始め理事者各位の協讃を頂き村 史上最大の大豊作を収め且村議会 りますが村民一体の御努力により 色々と多難の事柄があつた訳であ して勇躍すべき意義と希望に満々 の情勢はもとより村内にあつても 殊に本年は我が日本国民として 顧みますと昨四十二年は国内外

処に施策の概要と所懐の一端を申 る感激を覚ゆるものであります此 真に明るく富かに住みよい郷土の 政策の万全と最善の努力を尽して 積み重ねた幾多尊い名誉と伝統の 建設を約束致します時に心新たな 土台を基に世代の総力を結集して して我ケ村有史以来の先輩諸彦が 之の栄ある年に望み不肖村長と

上げ村民各位の絶大なる御協力を

討の上で善処致し度と存じます。

りますが昨春以来蓬田村民各位の

蓬田村長 御願いする次第で御座います。 坂 本 大

あります。 対応出来るよう推進致し度いので 立し以つて都市近郊農村の特性に に対する弾力と移行性の基礎を確 を図り将来に於ける高度成長農業 理化を促進して農工商立体の強化 いわゆる農林漁畜産業の近代合

児教育の適性施策についても再検 方法を行い希望と自覚を与へ又幼 各種機関団体の総力一体の機能発 勿論。 いては昨年同様三世代研修等併用 揮を促し就中農村後継者育成につ を計画している、 育事業をより振起して教育村の名 討を加え恒久施策の樹立を確定致 し度取敢じは学童の給食センター 二、教育の振興特に義務教育は に恥ない連鎖両輪の効果を考え 施設内容の充実に抜本的検 もとより社会教

行されている訳であります。 よつて皆様御承知の如く活発に施 の重点方針であり既に年次計画に 業基盤の拡大整備にある事は基本 長は本村の立地条件に立脚して農 一、産業の振興開発と経済の成

就きましては、私事で恐縮であ 以上簡潔に申上げましたけれど 御子弟の就職等ま

だまだいたらない事柄が沢山多か 御家庭の経済、 ものと考えさせられ心を痛めるも をいただけなかつた点が多々ある る次第で御座います。 ろうと今後の努力をお誓い申上げ のがあります。御病気や御不幸な せました時必ずしも各位の御満足 を村内毎戸に村民の一人一人には 実績を収めましたものの其の思い も昨年の数々は全村的には多大の

い度所存で御座います。 が万々の留意を致して御期待に添 げましれば枚挙につきせぬ訳です 祉事業なり健民対策の仕事なり又 るよう御願い致します。尚社会福 つて安寧確保のために御奮発下さ 村民の生命財産を災厄から護り以 各位は消防精神を涵養すると共に しい極で御座いますので一層団員 年祭記念にふさわしく本当に喜ば する予定であります。 の表彰旗授与の表彰の光栄に浴く 年記念大会に於て特望かなつて日 本消防協会長より県下只一りゆう 一般行政事務的向上等細部申上 誠に明治百 置き、 します。 幸福をお祈り申上げ年頭の辞と致 共に村民各位の御健康と弥栄の御 げ 願でおる次第であります。 の文化村建設の施策を講じたい念 教育文化を振興し本当に融合和 で愉快に働き豊かな生活を求め、 十三年度は村民の一人一人が健康 のです。従つて明けました昭和四 和な発展を逐げるのが最高の目標 らないのであり、全村こぞつて平 とされる一人の村民もあつてはな するに平等の権利を有す即ち大衆 治行政はその基調に信愛の精神を ております。 施政を致し度いと固く決意を致し 自からを正し力の及ぶ限り報恩の 学非才の身に鞭打ち身命を捧げて つて終世忘却する事なく期して浅 でなければいけないと信じている の利益とは申せそこにはその犠性 心から新年をお祝い申上げると ここに平素の疎遠を御詫び申上 人は夫々に行政の恩恵に浴 4 亦私は常ねに地方自 1



新 年 を 迎 えて

遜田村議会議長 森 初 男

御礼申し上げます。 をむかえることが出来ましたこと 支援とご協力により議長となり重 り議会議員に当選し、 に対し深く感謝すると共に、厚く 責を大過なく果して、ここに新春 謹んでご祝詞を申しあげます。 かえるにあたり、村民各位に対し 昭和四十二年四月統一選挙によ 輝しい昭和四十三年の元旦をむ 又皆様のご

能を充分発揮しなければならない の充実と高揚につとめ、議会の機 りの努力をいたす決意でありま 増進の向上をはかるため出来る限 じて、地方自治の発展と住民福祉 設のため、建全なる議会活動を通 す。これがためにはまず議会制度 私は年頭に当り住みよい郷土建 あります。

化してきております。 社会各分野、住民生活末端に潜在 われる諸現象が経済のみならず、 る伸長がみられなかつたのに対し の影響をうけて、財源的にさした と考えています。 重要な村財政は、我が国経済発展 まするに、自治体行政運営上最も 反面経済成長政策のひずみとい 過去の村行政をふりかえつてみ

いまや、その解消、是正の措置

を各種の施策、制度として実施せ ざるを得ない段階に追い込まれて 来ております。

の地域の格差、 度経済成長による科学的文化生活 的向上、特に産業の発展に併う高 象が強めてきております。 われて、いわゆる、財政硬直化現 実施する所要財源のバランスが失 複雑化してまいりました。それを はいうまでもなく住民福祉の総体 地方自治のねらいとするところ バランスの確保で

課題として要請されてくるところ 正していくことが村行政の大きな 対応する産業間の所得の格差を是 であります。 そのため現在の経済社会情勢に

明治百年祭に当り、メーテルリン 行政に日夜努力し住民各位の付記 あげ新年のごあいさつといたしま 共に探し求めたいと思います。 める「青い鳥」を住民の皆さんと クのチルチルと、ミチルが探し求 にこたえたい所存でございます。 村民各位のご健勝をお祈り申し 私共議会は地域は適合した開発

町村行政の需要が急激に増加し



催により多数の来賓を迎えて盛 それぞれ表彰状が贈られまし 大に行なわれた。歴代村長、教 A会長、永年勤続PTA役員に 長、永年勤続教職員、歴代PT 育長、学校医に感謝状。歴代校

ましよう

古 名言

だということ。なにごともはじめ 年の初めの元日の朝にきめるべき べきであり、一年じゆうの計画は は元旦にありし にしつかりした計画をたててから 一日の計画は朝のうちに立てる

「一日の計は朝にあり一年の計 かからなければならぬということ いつている。 晨に在り、一年の計は春に在り、 身に在り」といい、これを四計と のたとえ。古くから「一日の計は 生の計は勤に在り、一家の計は

> 出 かせぎ希望者

蓬田中学校

創立20周年記念式

の皆さんへ!

する方が増加するに従い、様々な 問題が起きております。そこで出 て下さい。 発する前に次のことがらを注意し 変ご苦労様です。最近は出かせぎ 出かせぎに行かれる皆さん、 大

去る十一月二十三日協賛会主

三、就労地先を必らず役場に届出 、留守中の生活について家族と 就労先の条件をよく確認して よく相談して決めておくこと おくこと

五 四 所、基準監督署、 考えこむことなく地元の安定 困つたことがあつたら一人で 出かせぎ先から一ヶ月に一回 以上は便りを出しましよう 警察署又は

出かせぎ先では健康に注意し 元気で帰郷できるように努め ましよう

出身地の出かせぎ相談所に相

談しましよう

明るい健全なものにしましよう。 以上のことを守つて出かせぎを 産業経済課

成 式 該 当 者 名 簿

5

月

蓬

H

村

議

会

田中千代子 武井さつ子 高木 八戸 八戸あき子 田村八四雄 吉田美保子 吉田千恵子 御引喜美雄 セッ子 俊正 輝次 きみ 明子 文男 ミ子 む子 元治 愛子 修治 裕子 正美

宮田 宮田 工藤 乳井 芳賀 山谷 青木 青木 小松サチイ 八戸 古川 藤本 藤本 泉谷 松本 藤田佐千子 藤本 小鹿 坂本 小鹿 工藤 田きつ子 ハツエ タエ子 みき はる 充子 清子 房子 正隆 鈴子 重子

らせ下さい。 教育委員会(電話三〇) 川崎 越田 八幡 福浦 久慈 佐井 柿崎 越田 片石 木戶 山舘 木飯田 長秋越木 浜名日出子 八幡トモ子 八幡志津子 青小木山 登坂 木村ョ 鈴武武張木井井間 丰 内由紀子 幸男 武松 惣市 和子 聖司 芳幸惠 武二夫郎 チェ = 敏昭

簿の落ちている人がありましたら までお知

佐藤 武美 金谷 稲葉 八幡 佐井 高森 越田 小野 越越田田 久慈のり子 越田 越田 浜本 畠山やす子 辰男 川崎美智代 佐井ヒサ子 木村 北川 高田 田中 高田 高田 一みのり 清五 良子 和子 柾春 文子 昇次 勝 芳 勝 正幸 勇

常勤職員公務災害補償組合の設立

蔵

出

合

計

八九八一二

滥

田

村

公

民

館

費 业

二五二八 二八八九

蓬田村社会教育委員会

蓬

H

村

教育委員

会

歲入歲出差引残金

公 教 消 土 商 農 劳 術 民

债 育 防

八二七四 三大大〇

同補充員の選挙について、 について、選挙管理委員会委員及

四十一年度決算額(千円)

秘

七〇四九

総 議 村諸繰寄財県 玉 使用料及び手数料 臨時地方特例交付金 分担金及び負担金 地 歲入合計 庫 方交付 産 支出 務会 附 H 収 出 金 税 費費 债入金金 入 金 亚 一三二四 四 四 四100 一大五二 四四六八 六四六〇 八一〇五 七六五 九七九 七四一 〇五 七七七

同補充員

田中 武井石太郎 坂本久米八 清衛

る。

末日から二月末日までは合宿とす

の末日まで開講し、

そのうち

田中嘉太郎

あき子、

班員三十六名です。

律子)の各先生、補導者には八戸 裁(成田きみゑ)、編物(佐藤恵講師には和裁(鈴木貞子)、洋 編入について、青森県市町村等非 関する条例について、固定資産評 価審査委員の選任について、村道 保険特別会計補正予算について、 算について、四十二年度国民健康 四十二年度蓬田村一般会計補正予 蓬田村非常勤職員公務災害補償に 健康保険特別会計決算について、 について、四十一年度蓬田村国民 のとおりである。 され同十九日閉会、 四十一年度蓬田村一般会計決算 遜田村議会は十二月十三日召 会議内容は次

木

T

費

二八五

固定資産評価審查委員 十二年度一般会計追加補正額 一六五四

選挙管理委員会委員 川崎 長作

中川与一 山谷 工藤 俊雄 諒逸 郎

八幡 邦雄

> 尚この建設班は十五日より二 建設班教室において県農務課長 去る十二月十五日午前十一時よ 公民館長、蟹田 月月

蓬 蓬田 蓬 逢田村民生委員協議会 蓬 田 田 村選挙管理委員会 田 H 田 村 村 農業委員 保 村 田 消 議 防 会 所 所 団 会 村

林

水産

業

費

三六五九

働 生 生

> 费 张

九七九 一六五

(順序不動)

第六回女子青年 100 (1017)

建設班 開催され る

いました。 委員長等を来賓に招き開講式を行 地区農業改良普及所長、 村議長、教育長、 議会文教





11月3日 広瀬小学校学芸会

11月26日 蓬田小学校学芸会



分により、最高二、九九〇円、

その世帯の課税区分及び年令区

オルグ委員

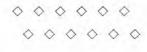
藤田

修逸

会

計

長



が児童の保育ができる場合は除

四

新役員

次のと

五円。

四十二年度決算額

八

但し、

その家庭の母親以外の人



期間中に申込んで下さい を受付けますから、

次により四

十三年度の入所

請

希望者は受付

昭

和

几

+

 \equiv

年

度

所入所

申請

の受付に

5

Vi

7

(1)

入所基準の概要

○母親が日常児童とはなれ

て家事

児童の

保

〇母親がいない場合、

または

長期

育ができない場合 以外の仕事に従事し、

の病気、

身心障害等により児童

の保育ができない場合

(4) 0 0 その

最低九〇〇円です。 申込の受付 受付期間

受付場所 蓬田村役場 係窓口) 一月八日~ 民 八日 生

他

印鑑持参のこと

(3) (2) かれます。 現在) 保 五四三 募集人員 三才未満児 才 才 才 児 児 (年令は四三・

> 副 会

会

長

松

本 田

長

政

二五名 五五名

った。 蓬田部落公民館において、 青年団体連絡協議会通常総会を行 去る十二月十四日午後五時 蓬田 より

口 行う 総 へお聞き下さ

※その他詳しいことは役場民 係

蓬田村公民館報

八戸あき子

発 行 所 青森県東津軽郡 蓬田村大字蓬田沙越12 蓬田村公民館(TEL30番)

印刷所 青森市古川美法27 (国際ホテルトナリ) 新印刷與業

イルオー 1 L O (英) 0 C (英)

NATO (英) R (英)

N (英) (44)

アプレゲール アウトライン (英) Arcade 拱

International Labor Organization 国際労働機構(国連の下部機関) International Olympic Committee 国際オリンピック委員会

North Atlantic Tneaty Organization 北大西洋条約機構

Public relation 広報活動、宣伝 United Nations 国際連合 avant-guerre 世界大戰以前、戰前派

(44) apres-guerre 戦後派 (英) Outline 輸廓、概略

外 来 コ 1 ナ I